

## 第8回仙台市立病院経営評価委員会議事録

- 1 日時 令和4年3月15日(火) 18:00~19:10
- 2 会場 仙台市立病院 3階第1会議室
- 3 出席者 藤森研司委員長、今西陽一郎委員、小針瑞男委員、鈴木信子委員、矢川昌宏委員、大和一美委員(委員6名)  
亀山病院事業管理者、奥田院長、菅原理事、伊藤次長(兼)経営管理部長、川口健康福祉局次長(兼)保健衛生部長、目黒看護副部長、文屋経営医事課長、菅原経営医事課主幹(兼)財務収納係長、吉野企画医事係長、倉本診療情報管理士、矢口主事、木村診療情報管理士、渡邊診療情報管理士
- 4 次第
  - (1) 開会
  - (2) 挨拶
  - (3) 委員委嘱・委員紹介
  - (4) 委員長選出
  - (5) 報告
    - ① 令和3年度経営的重点取組事項の第3四半期実績について
    - ② 令和4年度予算について
    - ③ 「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」の発出に伴う本市の対応の方向性について
  - (6) 議事
    - ① 次期「仙台市立病院経営計画(2022年度~2024年度)」の策定について
  - (7) その他
  - (8) 閉会
- 5 配付資料
  - 資料1 令和3年度 経営的重点取組事項(第3四半期実績)
  - 資料2-1 令和4年度予算について
  - 資料2-2 令和4年度予算の状況
  - 資料3 「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」の構成等について(総務省)
  - 資料4-1 次期「仙台市立病院経営計画(2022年度~2024年度)」[本編] (案)
  - 資料4-2 次期「仙台市立病院経営計画(2022年度~2024年度)」[概要版] (案)

### <議事概要>

- (1) 開会
- (2) 挨拶  
亀山事業管理者から挨拶。
- (3) 委員委嘱・委員紹介  
事務局から各委員及び事務局職員を紹介。
- (4) 委員長選出  
小針委員から藤森委員を推薦する旨の発言があり、各委員、異議なしで了承された。  
藤森委員長から、小針委員を委員長の職務代理人に指名、各委員、異議なしで了承された。
- (5) 報告  
会議公開の確認 ⇒異議なし(傍聴者なし)。  
議事録署名委員 今西委員、矢川委員に依頼 ⇒了承。

- ① 令和3年度経営的重点取組事項の第3四半期実績について  
(事務局から資料1を説明)

(質疑応答)

【今西委員】

「診療密度」の上昇に関しては皆さん尽力していただいていたと感じている。「診療密度」の値が上昇し、DPC特定病院群への参入が目の前に迫ってきたように見受けられていたが、新型コロナウイルス感染症患者が増えると同時に、重篤な患者さんが相対的に減少したようで、その結果、DPC特定病院群への参入要件の1つである「補正複雑性指数」も減少してしまい、要件を達成することができずに、参入とならなかったと考えられる。多くの感染症患者の受入れを行っていたので、致し方ない面があり、次回の参入に期待したい。

- ② 令和4年度予算について  
(事務局から資料2-1、2-2を説明)

(質疑応答)

【矢川委員】

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり収入が減少している。純損益と減価償却費を足した、いわゆるキャッシュフローがマイナスとなっているがやむを得ないと思う。資本金と累積欠損金の合計である純資産の部(資本の部)がマイナスになっていないか、つまり、債務超過になっていないかが分かるよう、経営計画の経営上の目標指標に明示してはどうか。

また、平成26年の地方公営企業会計基準の見直しにより、企業債は借入資本金から負債の部に計上されているので、企業債残高についても資料に明示してはどうか。

【藤森委員長】

矢川委員のご指摘については、考慮していただきたい。また、厳しい予算状況となっているため、是非、ご尽力いただきたい。

【小針委員】

新型コロナウイルス感染症対応に係る国からの補助金は今後、多くは見込めないと思うが、令和4年度予算では考慮しているのか。

【事務局】

令和4年度予算については、とても厳しく計上している。今後、国の補助金がどの程度見込めるか不透明であるため、予算には考慮していない。また、診療報酬改定についても、現時点ではどの程度の影響があるか不明なため、考慮していない。

【今西委員】

現在、診療報酬改定の影響について、概算でのシミュレーションを行っている。仙台市立病院の大まかな影響として、化学療法患者の増加により、外来収益は増収となっているものの、薬価の減少によって、これまで同様の収益を得ることはできなくなる。その結果、外来患者の増加を目指していく必要がでてくる。また、入院については、やはり薬価減少の影響で、収益が落ち込んでしまう病院が多いが、仙台市立病院は増収となる概算結果がでていいる。理由としては、救急医療管理加算などの診療報酬点数のアップが影響しているものと考えられるため、当院の役割でもある救急患者を獲得するということがポイントとなる。

- ③ 「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」の発出に伴う本市の対応の方向性について

(事務局から資料3を説明)

(質疑応答) ⇒なし

## (6) 議事

- ① 次期「仙台市立病院経営計画(2022年度～2024年度)」の策定について

(事務局から資料 4-1、4-2 を説明)

(質疑応答)

【矢川委員】

主にご説明のあった資料 4-2 (仙台市立病院経営計画 (2022 年度～2024 年度)) [概要版]、その他、資料 4-1 (仙台市立病院経営計画 (2022 年度～2024 年度)) [本編] も拝見したが、現状分析や、今後の具体的な取り組みが簡潔にまとめられており、今後の成果に期待したい。

【小針委員】

働き方改革を推進し、実践していこうとすると、どうしても人員を増やすといった対応が必要になってくると思うが、どのように働き方改革を進めていくのか。

【事務局】

勤務時間の適正な管理から見直し、超過勤務の縮減に病院全体で取り組んでいく。また、医師の働き方改革については、段階的に医師数も増やしてきており、超過勤務の縮減に繋がっていきたい。さらに、東北大学病院からの応援医師の当直等については、今後も継続してそういった体制が可能なのかについて検討しなければならないと考えている。すでに、超過勤務については、自己研鑽と労働のすみ分けを行い、職員へ周知している。

【今西委員】

増収を考慮していくうえで、やはり救急医療が重要になってくると思う。今回の診療報酬改定でも、救急医療管理加算の増点や、もう一方で、先ほどお伝えした DPC 特定病院群の参入を見据えているため、参入要件である「補正複雑性指数」を意識した重篤な患者を多く受け入れていく必要がある。重篤な患者というのは、平均在院日数が長い疾患の患者や、高額な医薬品を使用する患者、手術を必要とする患者など、いわゆる、救急患者を獲得することによって繋がってくる。

【藤森委員長】

救急患者を受入れることで患者確保を図るということは大事な視点であり、どの医療機関も注力しながら、入院患者の増加を図っていく。

仙台市立病院は救急患者の受入れは多いものの、他医療機関で受入れられなかった軽症患者の受入れも多く、入院に繋がらないケースや、入院が必要な症例であっても救急外来から直接一般病棟に入室するケースが少なく、重症病床の空床確保が難しいものとなっている。

仙台医療圏が抱える、後方支援等の受入れ先の確保が困難という課題が大きく影響しており、急性期病院で患者が滞留してしまうといったことが顕著に現れている。

市立病院の救急の特色ともいえるかもしれないが、救急患者を受入れている他医療機関と救急患者層が異なっていることに加え、救急科に長期間滞在しているケースもあると伺っており、救急患者の受入れや転院に関しての課題についてどのように感じているか。

【事務局】

新たな経営計画にも具体的な取り組みを掲げているが、地域包括ケアシステムの推進として、機能分化や連携強化を推進していく。地域のクリニック等から紹介いただく患者については管理者や院長、副院長等が直接医療機関等を訪問し、顔の見える関係の構築を積極的に図ってきたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、訪問活動を行うことが難しい時期もあった。最近では、仙台医療圏の抱える救急医療の課題について、WEB 会議システムを活用し、多くの医療機関とスムーズな入院、転院、退院後の連携について意見交換を行った。

また、最近の紹介患者数、逆紹介患者数の推移は、新型コロナウイルス感染症の影響が少なかった令和元年度並みに回復してきており、未だ感染症の収束は見通せない中でも心強く感じている。

【藤森委員長】

仙台市には多くの医療機関がありながら、救急患者の行き先が確保できないというのは、仙台医療圏特有の問題である。宮城県も課題と認識しているようで、新たな調査事業を行うと聞いている。宮城県や仙台市と連携しながら課題解決が図れば、より仙台市立病院が持つ強みを発揮できると考える。

【今西委員】

藤森委員長と同感である。今回の診療報酬改定では、中小規模の急性期病院は厳しい改定内容となっており、中には、急性期病院としての機能を果たせず、地域包括ケア等の急性期以外の機能へ移行せざるを得ない医療機関も出てくるのではないかと考えている。

新たな経営計画には、地域完結型医療も掲げられているため、推進していただきたい。仙台医療圏が抱える、後方支援等の受入れ先の確保が困難という課題はあると思うが、他医療機関との連携について具体的な方策を打ち出す必要があるのではないかと考えている。

【鈴木委員】

ワーク・ライフ・バランスや医療従事者の働き方改革が掲げられておりバランスの取れた計画となっていると感じる。医師の働き方改革が進まなければ、看護職の働き方改革も進んでいかないと思うため、取り組みを進めていただきたい。

また、“当院で働くことを誇りに思えるような”といった、すばらしいフレーズもあり、こちらの職員満足度向上に係る取り組みもご尽力いただきたい。

【大和委員】

新型コロナウイルス感染症拡大の中、仙台市立病院は感染症医療など、ご尽力いただいていると感じていた。そのため、患者さんを市立病院に紹介することで、かえって大変なおもいをさせてしまうのではないかと紹介をためらってしまうこともあったが、本日の議事の中にもあったように、紹介患者を待ち望んでいる旨をクリニック等へ発信した方がよいと思う。

【藤森委員長】

これから総務省から発出される「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」（以下、「新ガイドライン」）で地方自治体に要請される「公立病院経営強化プラン」（以下、「新プラン」）と新たな経営計画との関係性はどのようになるのか。

【事務局】

2023年度（令和5年度）中に仙台市で新プラン策定となるが、策定期限の違いによる計画期間の違いはあるものの、予め新ガイドラインが発出されることや、新プランの構成等情報が事前に一部公開されていたため、当該計画に多くを盛り込み策定を行った。

経営形態の見直しなど、当院のみでは検討が出来ない内容は、新プラン策定の中で仙台市や有識者等と検討が必要になってくる。

今回新たに策定した経営計画では、経営改善を図るための具体的な取り組みを評価する指標が97項目となっている。これまでは、単年度毎に経営的重点取組を掲げてきたところであるが、これからは、計画期間3か年の中で長期的に97項目の指標を用いて進捗管理を行っていくとともに、新プランの内容を踏まえながら本計画の見直しも検討し、経営強化を進めて行く。

(7) その他  
⇒なし。

(8) 閉会

以上

議事録の記載内容につきまして、すべて相違ありません。

令和 4 年 4 月 28 日

議事録署名委員

今西陽一郎

---

矢川昌宏

---